

第2回三重県地方創生会議概要

1 開催日時：平成27年6月1日（月）13:00～15:00

2 開催場所：三重県農協会館 5階 大会議室

3 議事概要：以下のとおり

1 開会（三重県知事 挨拶）

- ・本日は、第1回に引き続き、幅広いご意見を伺うために、県民代表、産業界、行政機関、大学、金融機関、労働団体、メディアのいわゆる産官学金労言など多くの分野から16名の委員にお集まりいただいている。
- ・今回は、前回の議論も踏まえて中間案をお示しさせていただくため、ここが重要だという部分や、ここの記述が足りないという部分などについて、各界の現場の生の声を率直にお伝えいただき、総合戦略等に反映できるよう努力していきたいと考えている。
- ・人口減少への対応は、三重の未来を決める重要な課題であり、私たち現役世代が次世代に対して果たす責任という意味で大変大きな課題であるため、忌憚のないご意見を賜りたい。

2 出席者紹介

今回から委員が交代した駒田委員（三重大学学長）から自己紹介

3 資料説明（安井企画課長）

資料1～資料4により説明

4 意見交換

（項目）

- ・「三重県人口ビジョン（仮称）」中間案及び「三重県まち・ひと・しごと創生総合戦略（仮称）」中間案について
- ・「『県内圏域』『県境』『分野』を越えた連携」、「条件不利地域への対応」の取組事例や人口ビジョンの将来展望の考え方等について

各委員から出された意見の概要は以下のとおり（欠席委員の意見紹介を含む。）

（中間案全体に対する意見）

- ・地域課題はさまざまであるため、まず市町の取組が必要かつ重要である。

- ・まち・ひと・しごと創生の推進にあたっては、人口規模が小さく、財政基盤の弱い市町が取り残されることがないように市町との連携をしっかりとっていただきたい。

(人口ビジョンの将来展望に対する意見)

- ・県民が45年後に向けて何をしたらよいかイメージできるような、モチベーションをあげるようなアプローチ、見せ方の工夫が必要である。
- ・持続可能という観点から、45年後の人口ピラミッドの各年代において、どれくらいの割合に据えておくかということを考えてビジョンを策定するとよい。年代別に、どんな方に来て欲しいかと少し視点を変えてみると、効果的、理想的な人口の積み重ねができるのではないか。
- ・人口ビジョンの将来展望をどう考えるかについて、どういった考え方に基づき転出数を抑制し転入超過にもっていくか、最低限のシナリオを示した方がよい。ポイントは3つあり、15～19歳の高等教育機関への進学、20～29歳の県内での就職、通勤圏としてのベッドタウン機能だと考える。
- ・人口ビジョンは、右肩上がりは厳しい。2040年を目途に均衡、安定させるのが常識的である。

(自然減対策に対する意見)

- ・子どもの発達障害について支援とは記載されているが、どのような支援をするのか、具体的な取組を記載してほしい。
- ・正規雇用の重要性の啓発については、国と県が連携するとともに、関係者が一体となって取り組むことが重要である。

(社会減対策に対する意見)

○全体

- ・社会増加してほしい年代に対するアプローチが戦略として重要である。
- ・いかに自分の地域を愛せるか、自分の地域のよいところを複数言うことができるか、などが課題だと思う。文化、教育、社会事情がミックスされた中で、地域の独自性を見出していく必要がある。
- ・三重県は地域によって異なるということが課題だという意識が強まりすぎる。違いをいかに魅力に転換して捉え発信させていくことが重要である。

○学ぶ

- ・高等教育機関の強化が必要とされているため、総合戦略にさらに具体化して織り込んでどうか。地域の企業が重要としている「実学」を教えていく必

要がある。

- ・三重県で働きたいと思っている学生へのアプローチと魅力ある企業を三重に増やすことが必要である。三重県では大学進学者の8割が県外に進学しているため、県外で勉学に励んだ学生が就職時に地元に戻ってきてくれることと、県外から三重県内に進学した学生がそのまま三重の魅力、県内の企業等に魅力を感じて三重で働きたいと思えるようになることが大事である。学生が就職活動を始める前の大学3年生の春・夏に、三重の企業魅力を発信する説明会があれば有意義な会になると思う。
- ・三重大学に新しい学部を増やしたり、既存学部の定員を増やせば、今より活気あるまちにはなるかもしれないが、働く場の魅力を向上させなければ、長期的に三重に留まることにはつながらないと考える。
- ・県内大学は、積極的に地域貢献していくことが必要であると考えている。
- ・オリンピックに出るような子は、「早熟な人」か「奥手の人」であるとの話もある。そのため、従来の入試制度にプラスして、「早熟な人」、「奥手の人」を獲得する方法を考えていきたい。まず、「奥手の人」には、全学部地域枠を作って、進学校以外の高校からの受け入れを進めていきたい。「早熟な人」、つまりトップクラスの人が三重県外へ出ていくのを食い止めるために、入学試験なしで受け入れ、その代わりに大学が世界一を目指して人材育成していくことが重要であると考えている。
- ・小中高大を地域完結型にしてほしい。大学のない地域にサテライト教室をつくり、総合教授を配置してほしい。最近の先生は、2、3年で異動してしまうし、他地域の方が多い。地元だけの先生による地元完結型の教育を行い、地元愛・郷土愛を育てるようにしてほしい。
- ・伊勢において、観光資源があるにもかかわらず、観光ビジネスが子どもたちに根付いていない。伊勢のあり方、三重のあり方を発信できるような教育をお願いしたい。
- ・各地区の老人ホームなどで元気なお年寄りが作った野菜を利用して、子どもたちと一緒に給食を作り、野菜の栄養なども指導しながら、しっかりと食事をとることが、学力の向上にもつながり、将来の対策にもなると思う。
- ・勉強もできて、運動もできる、それが就職につながると考える親もいるので、県外に人口が流出しないように、勉強と運動をバランスよく強化する教育環境が必要である。
- ・スポーツ選手に話を聞くと、三重にいたいけど指導者がいないと言われる。指導者を育てていくためには、指導者同士等のコミュニケーションが重要であると思う。
- ・運動能力が高い人の中には、コミュニケーションが苦手な人もいるので、適

切な指導ができると、さらに人が集まってくると思う。

- ・「ぬるま湯」ではなく、がんばれば手の届く目標を設定し、その達成感が得られる環境をつくってほしい。

○働く

- ・総合戦略は、やや総花的でメリハリがわかりにくい。三重県は、GDPが8兆円を超え、生産性が高いことが特徴である。大事なことは、この8兆円という経済力を落とさず維持していくために、生産性、効率性を維持・向上させることである。
- ・三重県の戦略として、どのような産業を振興していくのか、具体的な戦略目標が必要である。
- ・①農地法、環境アセスメント、工場立地法などの要件緩和等の規制緩和の推進、②Wi-Fiの県内普及、交流を盛んにするネットワークの充実などの観光振興の推進、③森林境界の確定が遅れている林業への対応が重要である。
- ・新しい雇用の場の確保では、一次産業との連携が重要である。
- ・一次産業を支える農業者や漁業者等が、一つひとつの魚や米について心豊かに語れたら、すごい戦力になる。このような後継者を三重県で育成する必要がある。よって、いろいろなことを知っている人材を一次産業で育成するようなプログラムを作ってほしい。
- ・三重県は万人にとって住みやすい県であるといえるが、やはり基幹産業は必要であるから、フードビジネスに力を入れていくことは必要だと考える。
- ・転出者数が多い20～29歳の転出を抑制する対策として、第二次産業の企業誘致が重要である。製造業等の企業誘致を促進している地域は、転出増加を抑制している。働き手が増えていると出生率、転出数の抑制につながる。
- ・雇用者数が多いサービス産業での雇用創出の視点が重要である。
- ・サービス産業で中核的に働く人材を育成するため、高等教育機関での教育の在り方も考える必要がある。
- ・働く女性を支援するために、弁当ではなく学校で給食を提供してほしい。そのことが、三重県の魅力向上、県外からの移住にもつながる。
- ・雇用の確保には、労働対価にふさわしい賃金の確保、安定して働ける雇用形態、やりがいのもてる仕事が必要である。
- ・非正規雇用者の給料の底上げが根本的に必要ではないか。最低賃金の制度があるが、それらの引き上げが必要になってくる。
- ・長時間労働の抑制のため、県民運動まで広げることが必要ではないか。
- ・「産業人材の育成」と「働く場・働き方の質の向上」を車の両輪として両方充実させていく必要がある。

○暮らす

- ・転入超過を目指すには、ベッドタウンとして県北部はもっと魅力的な場所になっていい。「守り」として、県南部からは愛知へ行くより県北部に住んでそこから通っていただく。「攻め」として、愛知県内より距離が短い通勤圏が存在することから、愛知県からの転入を促進する作戦も有効である。
- ・三重県にさまざまな地域の特性があるということは、それだけ多くの商品があるということである。その商品の魅力をブラッシュアップした後の地域の発信に期待したい。
- ・地域の自慢できるもの、魅力あるものをちゃんと発信できるように、伊勢えびなどの海山の幸を子どもたちに理解させることが大事だと思う。
- ・企業や住民にかかるコストが安いということが、三重県にとっては有利である。住民等にかかるコストを下げるということは行政にとっては必須なことではないか。
- ・三重県には文化施設が多いため、宣伝やPRをうまくやれば、総合的に勝る豊かな県になると思う。
- ・三重県にはメジャースポーツのプロチームがないため、子どもたちのローカルアイデンティティが育まれない。県内にプロスポーツチームをつくることも重要である。
- ・グローバル化の視点も重要である。例えば、県内に4万人以上の外国人が働いているという現状や、県外、海外に行くと初めて三重県の良さが分かるため、縛りつけるのではなく、魅力を感じたら帰っておいでという視点も大事ではないか。

○条件不利地域への対応

- ・離島の空き家等を活用して、海外の日本語学校の卒業生の移住を促進すれば、国際交流にもなるのではないか。
- ・条件不利地域への対応に関して、三重県という事業体として地域が目指すべき方向・ベクトルが共通でなければいけない。市町の連携を深めるとともに、トップダウンによる行動変化を伴う意識の醸成や、ボトムアップによる地域からの発信を期待したい。
- ・南部地域では、市町の考えを尊重し、オール南部で対応し、県がリーダーシップを発揮していく必要がある。
- ・南部地域には、海、山、川、食べるもの全てが揃っているが、人を南部地域でどう活かし、どう住んでもらい、どう使っていくのかということが、南部地域の人づくりで一番の問題点になると思う。

- ・南部地域は、まずは量より質を求めべきではないか。人を増やすことだけを考えるのではなく、まずは住みやすい満足度の高い地域をめざすことで、結果的に人が集まってくる地域になる。
- ・南部地域では、宿泊施設が少ないため、ホテル誘致が必要である。
- ・南部地域は南海トラフ地震の懸念から、地震に対する一定の安全性を担保する必要がある。
- ・南部地域では、現実には観光産業で働いてくれる人が少なくなっている。労働単価が上がることを理由に北勢地域に出ていく人がいるため、住む人の価値観が変わってきているのではないか。

○「県境」「県内圏域」「分野」の連携

- ・地域の一次産業と連携して、母親の短期間・短時間就労「コラボワーク」を支援している。主婦は限られた時間で効率的に働くことが得意であり、社会に貢献できる場所もある。主婦も働けるような環境を整えることで、自然減対策に加え、社会減対策にもつながっていくのではないか。
- ・第一次産業とのコラボで、母親に地元への愛着がわき、それが子どもにも伝わると考えている。また、さまざまな企業とのコラボを通じて、職に対する偏った考えが取り払われ、理解が進むと考えている。
- ・学生と企業等が連携し、地域で頑張っている企業やNPOを他の企業等や学生、地域住民につたえ、つなげる活動を行っている。地域への熱い気持ちを持っている企業、NPOを学生目線で取材し、SNSで発信している。多くの方に知っていただくことが重要であると考えている。

(基盤づくりに対する意見)

- ・県によるコンパクトシティの積極的な推進などによる市街地の活性化が重要である。
- ・道路、鉄道、ICTなど、利便性につながるインフラ整備をすすめてほしい。
- ・防災・減災対策で大事なことは「自助」「共助」である。これを地域の強みとするため、住民や移住する方に対して「住むからには自分で」ということを求める表現を加えることが重要である。

(知事の発言)

- ・人口ビジョンの将来展望で、社会増になっていくというのは、やや無理があるのではないかと、という意見をいただいた。また、将来展望を描くには、なぜそうするのかロジック、論理的な道筋が重要だというご指摘をいただいたので、それを踏まえて最終案を示していきたい。

- ・大変多く、こういうところが重要だ、又はこういう点が抜けている、といったご指摘をいただいた。予算との関係や、現在県全体の行動計画の見直しをしている関係もあり、少し抽象的な表現が多かったと思うが、今後、ご意見を踏まえて、具体化をしていきたいと思う。
- ・全体的にもっとメリハリをつけたり、大胆な意見を入れたらどうかという意見もあったので、最終案に向けて議論をしていきたいと思う。
- ・一次産業分野に関する意見を反映するため、新たに一次産業関係者に委員に就任していただくか、改めて関係者の方と意見交換の場を設け、いただいた意見を地方創生会議で紹介するなどの方法を検討したい。
- ・9月には議会に最終案を報告したいと考えているので、策定するまでは次回が最後の会議になる。最終的に三重県の未来を決める総合戦略をいいものにしたと考えているため、電話やメールでも構わないので、総合戦略を策定するまでご意見をいただくとともに、ご指導をお願いしたい。